

2014年度 法科大学院
第3回 既修者入学試験問題
2時限
民法(論文式)
試験時間 60分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民法]

つぎの文章を読んで、設問に答えなさい。

Aは、2013年4月1日に、その所有する甲土地をBに売り渡す契約を結び、Bはその代金5000万円を同年5月より9月まで毎月末に1000万円ずつ支払うこと、Aは9月末の1000万円の支払と引換えに移転登記をなすべきこと、を約した。同年4月8日、Bは甲土地をCに6000万円で転売する契約を締結した。

Aは、同年4月15日に、5月末を弁済期とする1000万円の代金債権をCに譲渡し、同日その旨を内容証明郵便でBに通知した。BはCの求めに応じて弁済期前の5月15日に右1000万円を支払った。ところが、Aは、5月20日になってCに甲土地を代金5500万円で売り渡し、Cに移転登記をしてしまった。

設問1

BがAとの売買契約を解除した場合、BはCに対し1000万円の返還を請求できるか。

設問2

Bは誰に対していかなる責任を問うことができるか。

(解答は全て解答用紙に記入すること)